



平成29年度 文化庁
文化芸術創造活用
プラットフォーム形成事業



なんき
**南葵音楽文庫寄託記念
読売日本交響楽団**
和歌山特別公演

国内最高峰の名門オーケストラ「読響」の旋律が
南葵音楽文庫創設者の情熱と夢を今ここに甦らせる

管弦楽
読売日本交響楽団
Yomiuri Nippon Symphony Orchestra

©読響

ネイラー
序曲

「徳川頼貞」

モーツァルト
ピアノ協奏曲第26番

「戴冠式」

ベートーヴェン
交響曲第5番

「運命」

ピアノ

仲道郁代

Ikuyo Nakamichi

©Kiyotaka Saito

指揮

川瀬賢太郎

Kentaro Kawase

©Yoshinori Kurosawa

2017 **12.6** [水]

18:30開場 19:00開演

和歌山県民文化会館大ホール

一時保育(有料)をご希望の方は、公演の8日前までに当財団へお申し込みください。

全席指定 S席(1階):大人3,000円 高校生以下1,500円
A席(2階):大人2,000円 高校生以下 500円
※未就学児のご入場はご遠慮ください。

主催

和歌山県／一般財団法人和歌山県文化振興財団

後援

読売新聞社／読売テレビ

ご予約・お問い合わせ

和歌山県民文化会館 TEL.073-436-1331

チケット発売

けんぶん友の会先行電話予約 7/18(火) 10時から
一般(プレイガイド)販売 7/29(土)から

プレイガイド

和歌山県民文化会館 073-436-1331
インターネットからもご予約できます。 <http://www.wacaf.or.jp>
HITSイシイ小松原店 073-422-6769
ローソンチケット 0570-084-005 (Lコード:52844)
0570-000-407 (演劇・クラシック専用)

※和歌山県民文化会館でご予約いただいたチケットは、次の施設でお引き取りできます。
粉河ふるさとセンター 0736-73-3312 / かつらぎ総合文化会館 0736-22-0303
県立橋本体育館 0736-32-9660 / 御坊市民文化会館 0738-23-4881 / 紀南文化会館 0739-25-3033

❖数奇な運命を生き抜いた音楽コレクション

南葵(なんき)音楽文庫が、いま和歌山で、公開の日を待っている。南葵とは、御三家のうち紀州徳川家をさす。その16代当主で、西洋音楽のなかでもベートーヴェンに傾倒した徳川頼貞(よりさだ)(1892-1954)は、莫大な私財を投じて音楽資料を蒐集、わが国初の音楽専用ホールである南葵楽堂を東京麻布に建て、同地でコレクションを公開した。

しかし、関東大震災や戦争はその維持を困難にし、文庫は人々の前から姿を消した。半世紀前の1967年に東京と大阪で読売新聞社主催による「特別公開 南葵音楽文庫」展が短期間だが開催され、地震や大空襲の直撃、疎開や保管場所移転などをくり抜けながらも、コレクションの根幹部分が継承されているのに関係者は驚喜した。

❖希有な資料の宝庫

ベートーヴェンやベルリオーズ、リストといった大作作曲家の自筆楽譜、バッハ、シューベルトなどの貴重な初版楽譜、ヘンデルやモーツァルト作品については同時代に書写された楽譜、歴史的な音楽書、稀覯本、番号入りの限定本、作曲家署名入りの楽譜など、南葵音楽文庫は、由緒や特別の来歴をもった資料の宝庫である。頼貞に献呈された作品の楽譜も含まれている。序曲《徳川頼貞》は、英国留学時代の師ネイラーが頼貞のために作曲し、南葵楽堂のオルガン設置を記念するコンサートで初演された。今回が97年ぶりの再演にあたる。

❖閲覧だけでなく企画展も

2万点をこえる資料を所蔵するのは、公益財団法人読売日本交響楽団。寄託のかたちで全資料を受け入れる和歌山県は、県立図書館で、整理の済んだ資料から順次公開するという。寄託資料のうち貴重な写本類は和歌山県立博物館が保管、同館では企画展「南葵音楽文庫 音楽の殿様・頼貞の楽譜コレクション」を開催する。頼貞が音楽専門図書館を構想し、資料蒐集を本格化してからおよそ1世紀。紀州徳川家ゆかりの地で、その歴大なコレクションが姿を現そうとしている。



南葵楽堂 (1918年落成)



バッハ オルガン用変奏曲《高きみ空より》(初版(1747頃)世界に10数点しか残されていない)

Profile



伸道 郁代(ピアノ)
Ikuyo Nakamichi, Piano

4歳からピアノを始める。国内外での受賞を経て、1987年ヨーロッパと日本で本格的にデビュー。温かい音色と叙情性、卓越した音楽性が高く評価され、人気、実力ともに日本を代表するピアニストとして活躍している。これまでに国内外のオーケストラと共演を重ねている他、2016年秋からはデビュー30周年を記念した公演が、全国各地で予定されている。音楽の無限の可能性を信じ、子どものためのプロジェクト、ワークショップ、演劇とのコラボレーションなど多彩な活動も実施。魅力的な内容とともに豊かな人間性が多くのファンを魅了している。

CDはソニー・ミュージックと専属契約を結び多数リリース。新著の『ピアニストはおもしろい』(春秋社)も版を重ねている。メディアへの出演も多く、音楽の素晴らしさを広く深く伝える姿勢は多くの共感を集めている。

伸道郁代オフィシャルホームページ <http://www.ikuyo-nakamichi.com>



川瀬賢太郎(指揮者)
Kentaro Kawase, conductor

84年東京生まれ。07年東京音楽大学卒業。指揮を広上淳一、汐澤安彦等各氏に師事。06年東京国際音楽コンクール<指揮>において1位なしの2位(最高位)に入賞。以来各地のオーケストラから次々に招きを受ける。また近年、細川俊夫作曲オペラ「リアの物語」やモーツァルト作曲「フィガロの結婚」「後宮からの逃走」「魔笛」等を指揮、オーケストラ

公演のみならずオペラでも注目を集める若き俊英。現在、神奈川フィル常任指揮者、名古屋フィル指揮者。八王子ユース弦楽アンサンブル音楽監督。三重県いなべ市親善大使。2015年渡邊暁雄音楽基金音楽賞、2016年第14回齋藤秀雄メモリアル基金賞、第26回出光音楽賞、第65回横浜文化賞文化・芸術奨励賞の各賞を受賞。



読売日本交響楽団

Yomiuri Nippon Symphony Orchestra

1962年、オーケストラ音楽の振興と普及のために読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビのグループ3社を母体に設立された。

アルブレヒトヤスクロヴァチェフスキら世界的巨匠が歴代の常任指揮者を歴任し、2010年4月からはシルヴァン・カンブルランが常任指揮者を務めている。15年3月には、欧州公演をカンブルランの指揮で行い、読響の実力を欧州の地に刻印した。同年9月にはワーグナーの楽劇「トリスタンとイゾルデ」を演奏会形式で行い、新聞や雑誌で絶賛された。

現在、名誉顧問に高円宮妃久子殿下をお迎えし、東京・赤坂のサントリーホールでの定期演奏会を軸に充実した内容の演奏会を多数開催している。また、小中学校や病院での演奏などの社会貢献活動を通じ、音楽文化のすそ野拡大に地道な努力を続けている。

演奏会の様子は日本テレビ「読響シンフォニックライブ」で放送され、「日テレオンデマンド」でも動画配信されている。

読売日本交響楽団公式ホームページ <http://yomikyoo.or.jp/>